



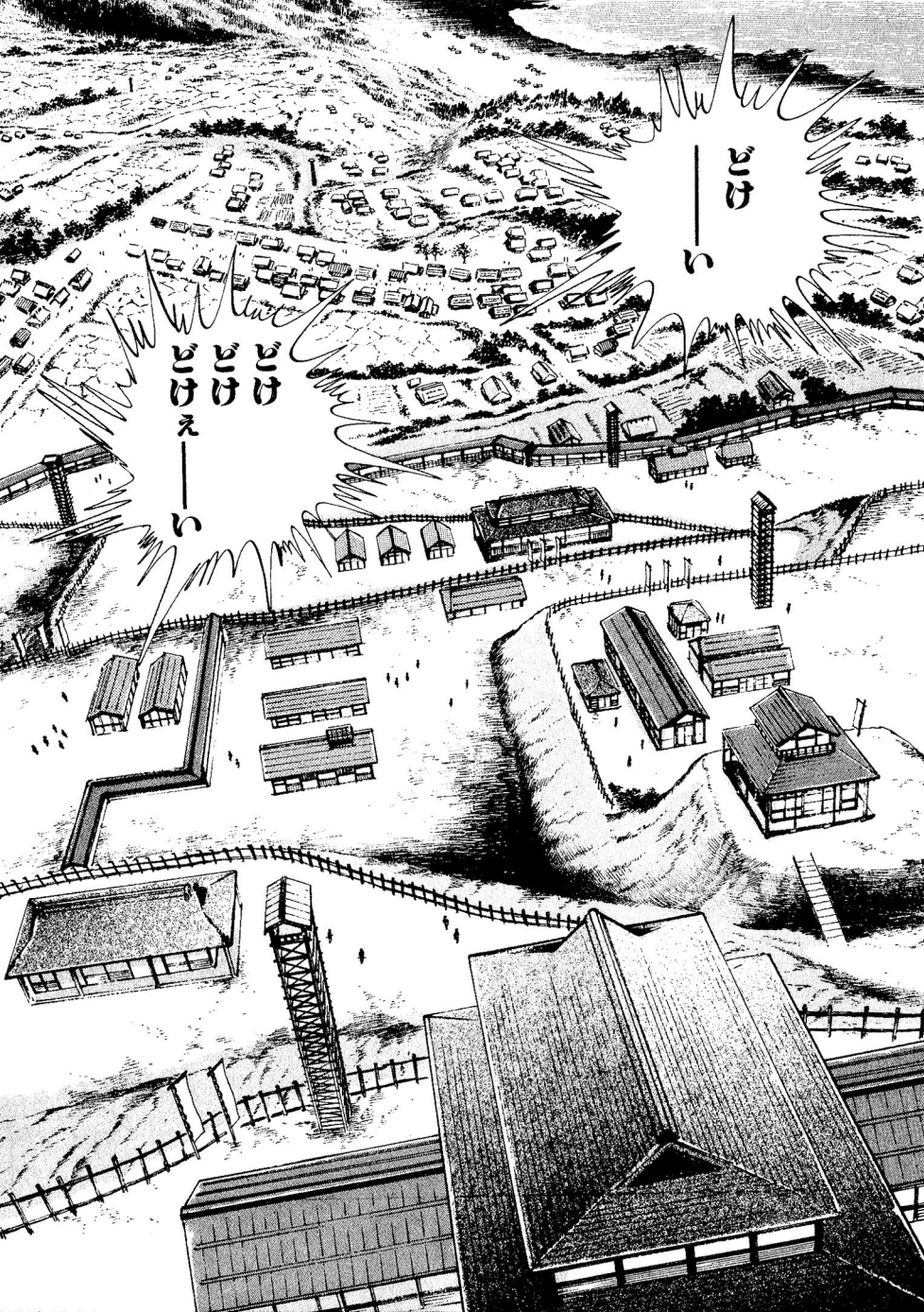
猛
黄金の国



〔天運〕

道
三
三

本宮ひろ志



とけえ
とけえ
とけえ

とけえ



道を
開けえ
い



国の
大事と
言ってたな

あれは確か
津久井城の
伝達頭
石川殿では
ないか



戦さか

この本城
小田原に
早馬で戻られたと
いう事は



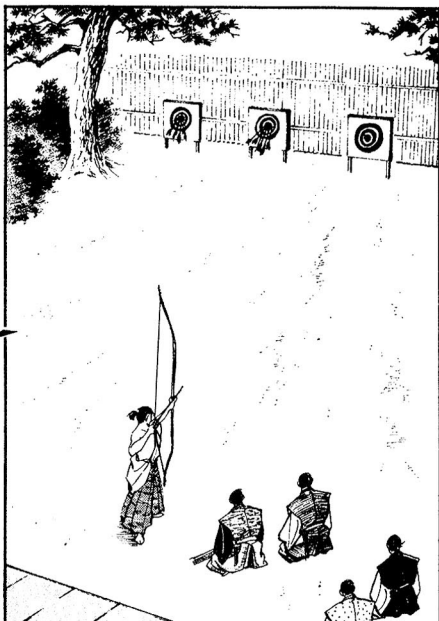
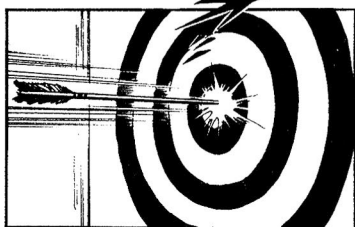
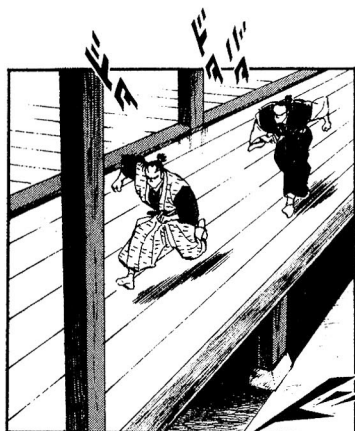


国の
大事じゃ

うりゃあ
あああ
っ



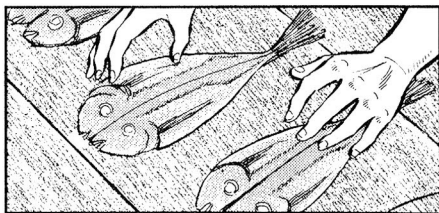
開門



申し
上げます

武蔵の扇谷上杉が
兵を挙げ国境い
津久井城を
目指しているとの
伝令です



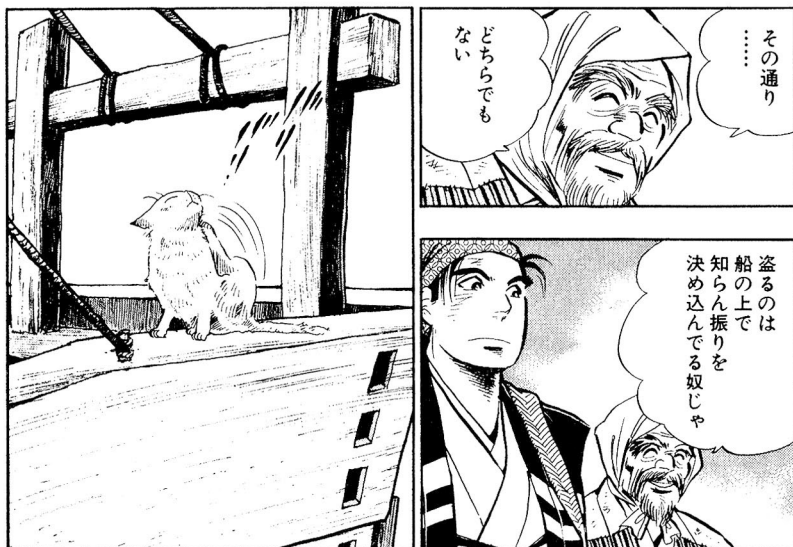


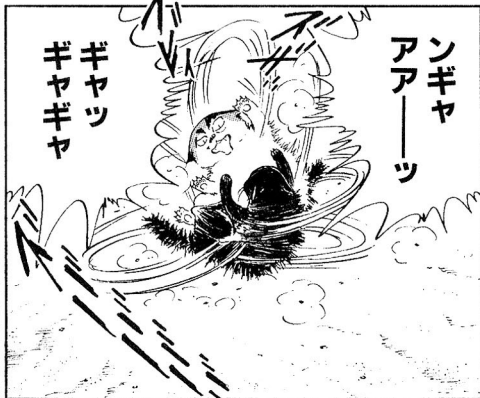
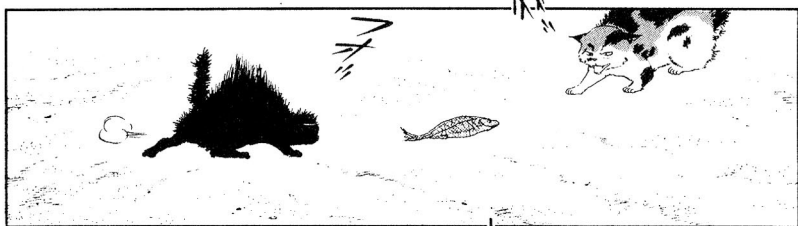
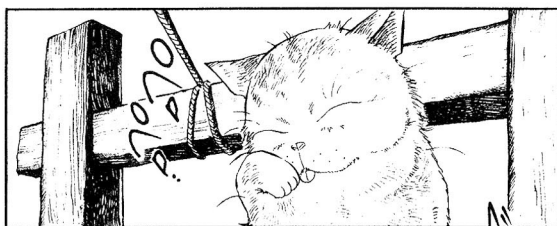
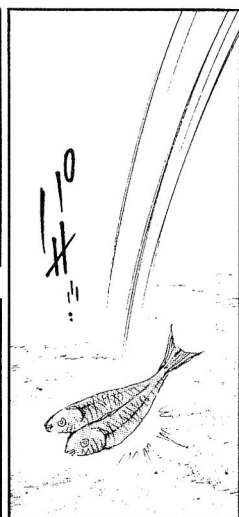
猛き黄金の国—道三—②

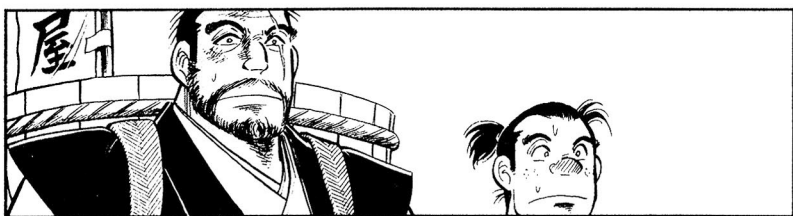
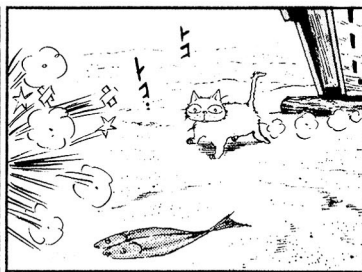


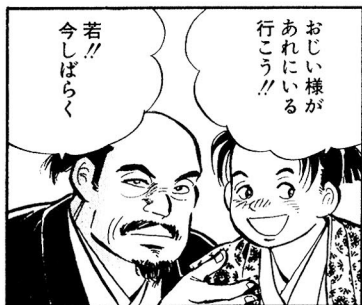


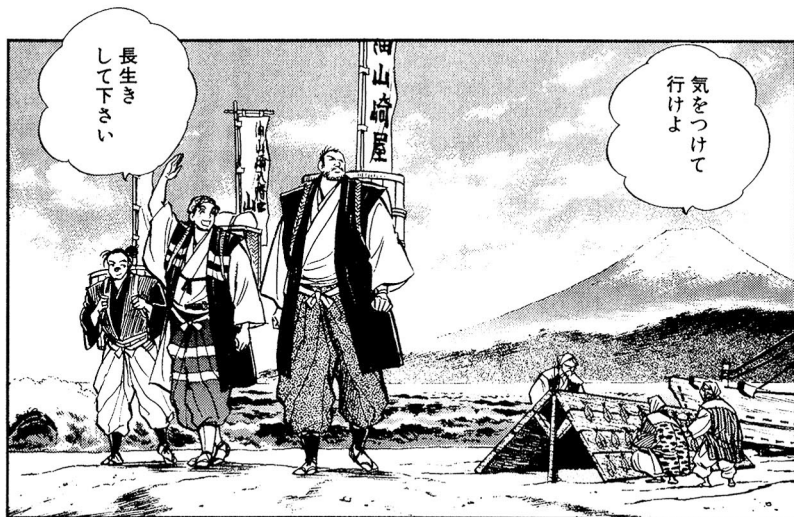
猛き黄金の国 道三 ②













伊豆の
北条早雲……

この怪物が
東へ動くか
西へ動くか……
これが大問題だ
……

早雲か
……



百姓兵五百をひきつれ
一気に伊豆北条を攻め
わずか三十日足らずで
伊豆一国を手にして
しまったんだ

その年
早雲は
なんと六十歳だ



はじめの名前は
伊勢新九郎
……京の名族
伊勢氏につながる
者と聞いたが……

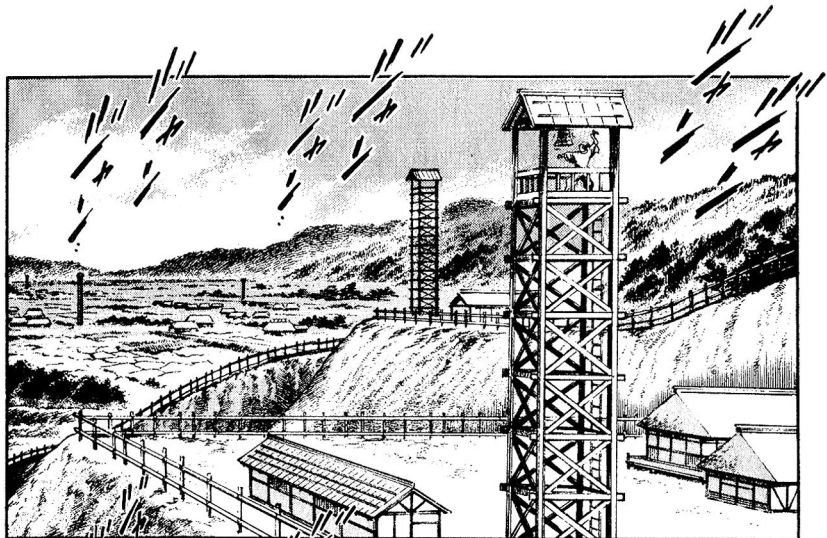
それが今では
伊豆と相模を
押さえる大大名だ



駿河の今川を
頼って仕え
内輪採めを収めて
小さな城の
城持ちになった

それから十年経って
伊豆の堀越公方が
当主足利茶々丸の
代に世継ぎ問題で
揉め出した時……









小助……



！ああっ



次に太鼓の音で鎧甲を着け待機

そして法螺貝でそれぞれの城に集結だ……



おうさ



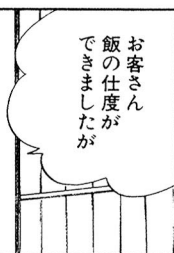
そこまで書かれていたのか……あそこに



お前の頭領の国割りの記述寸分の間違いがない



お酒はどうしますかね



お客さん飯の仕度ができましたが



いいのか
こんな
のんびりして

おい
この鐘は
戦さでも
あるんじや
ないのか

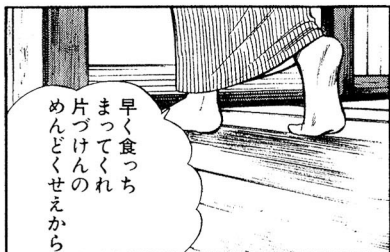


おおうっ
あるだけ
持つて来い

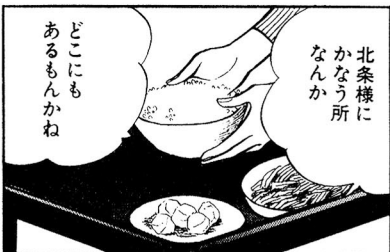
そりや
だめだア
お客さんは
あんたらだけじや
ねえズラよ



ああ
わだスらには
関係ねえズラよ



早く食つち
まってくれ
片づけん
めんどくせえから



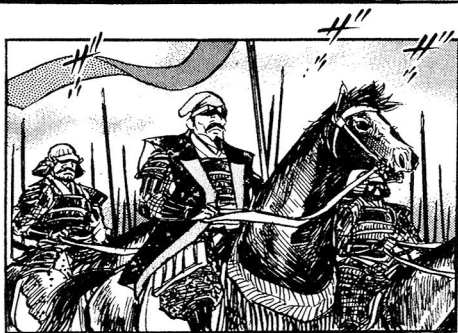
どこにも
あるもんかね

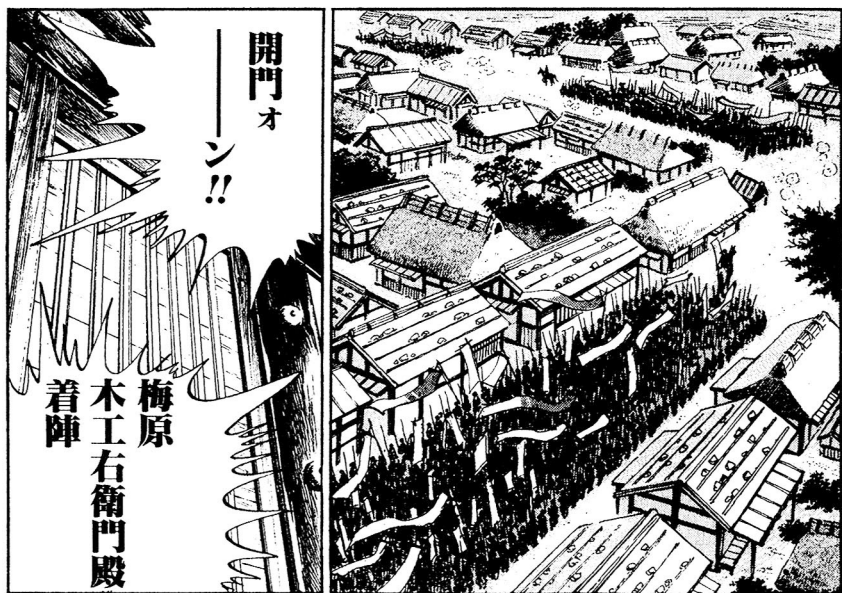
北条様に
かなう所
なんか



足利幕府が
北条早雲
ならば

天下は
ゆるぎなく
治まって
いたな……





氏綱にとって
父上より
預かりし
この小田原!!



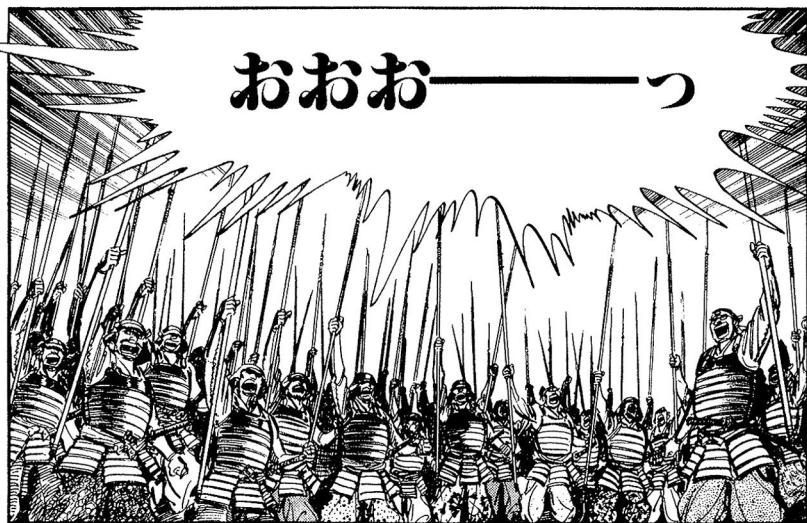
敵は相模に
侵入して
来ている

思い切り
戦え
万が一の時は
取り残されし
家族を
北条が守る!!





領国を
守る為の
初めての
戦さじゃ



おおお———っ

